

ほやたるみといふ所、おかしきをとほせ給へば、さなんと奏するに、名をきくよりからき道にこそとのたまはせて、さしのぞかせ給へる御さま、かたちふりがたくなまめかし、けちかきかぎり
 はあはれにめでたうもと思ひきこゆべし、大くら谷といふ所すこしすぐるほどにぞ、人丸のつかはありける、あかしの浦をすぎさせ給に、島がくれゆく舟ども、ほのかにみえてあはれなり、
 略野中のまみづ、ふたみのうら、高砂の松など名有所々、御らむじわたさるゝも、かゝらぬ御ゆき
 ならばおかしうもありぬべけれど、
 略

〔播磨名所巡覽圖會〕三高砂略慶長六年、丑年當村祠造營の時迄は、民家は今洲にありて、官家の傍尾上高砂の間也、其後官家廢して民家は残り、諸國の通商大場の湊と成りて、大廈つらなり、上に川あり、下に海あり、萬船の出入に便よくて、遠く交易す、元より本邦出群の名所なれば、名にしおふ風流の名家も多し、今松林を倉庫に換て風藻を改めしは、惜むべきに堪たり、
 略

〔散木弄詞集〕六又の日高砂にまかりて、船よりおりて濱にこゝろなぐさめけるに、名にきこゆる松はいづれぞとたづねければ、かれて久敷なりぬといふを聞て、

高砂の松におくれてたつなみのかへるけしきぞ我身成ける

〔播磨名所巡覽圖會〕二舞子濱東四十五六丁、南北五六丁の松林なり此地古歌なれば、必名所といふには非ず、されども名高き事天下に聞へたり、是正に砂色松の翠色、物に異なるが故也、砂は雪より白く、數千株の松に高低なく梢を等ふして、丈に不過、枝幹屈曲をのづから見所ありて、葉の色殊に深くして、鴨の毛のごとし、いかさま高砂尾上住のえといへども、是に一變して獨松林の賞すべき者也、

〔延喜式〕兵部二十八諸國健兒略○中 播磨一百人略○中

諸國器仗略○中 播磨國甲三領、横刀廿口、弓卅具、張征箭卅具、胡籬卅具、